



2024.4.20

Vol. 69

北海道サケ ネットワーク Newsletter

発行 阿部周一
事務局 高橋壽一 札幌サケ協議会
〒006-0839
札幌市手稲区曙9条1丁目10-25
Tel/Fax: 011-681-4268
E-Mail: jaytaka@carrot.ocn.ne.jp
URL: <http://salmon-network.org/>
編集 寺島一男
E-Mail: terashima@potato.ne.jp

4月16日松前町で桜の開花が確認され、桜前線がいよいよ道内に上陸しました。このところ初夏を思わせる気温も各地で出現していることから、このあと足早に道内を進みそうです。
古いパソコンが不調で最近のデータを無くしてしまうなど、編集者の不手際から、NLの発行がすっかり滞ってしまいました。深くお詫びいたします。



PCも取り換えましたのでNLの方も軌道に乗せたいと思います。各地の情報などぜひお寄せ下さい。



INFORMATION

昨年6月、標津サーモン科学館及び標津町の積極的なご支援を得て、標津町で現地ならではの特色あるサケ会議と本会の総会を開くことができました。とりわけカヌーに乗ってポー川を巡るエクスカッションは、印象に残る感動的な催しでした。

2024 総会の概要

本年は札幌に戻って、総会並びにサケ会議を開催いたします。

- 【1】日時：2024年6月8日(土)
13:15~14:00
- 【2】会場：札幌市男女共同参画センター(札幌エルプラザ)4F中研修室(〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目)
- 【3】内容：
 - (1) 2023年度の活動報告・収支決算報告・監査報告の承認・会員状況
 - (2) 2024年度の活動計画・収支予算の承認
 - (3) 役員の選出・承認
 - (4) 会員(法人・団体)からの活動報告
- 【4】その他：

サケ会議開催趣旨

世界的な魚介類天然資源の漸減と健康志向による魚介類消費増加のなか、養殖サケマス(サーモン)類の需要が近年著しく高まっています。

サーモン類の養殖はまた、地域起こしの目玉や秋サケ不漁に悩む沿岸漁業を補完する切り札ともみなされ、九州から北海道まで全国120を超える事業者がこれまでに誕生しています。
このような状況のもとで、今回、北海道と東北など北日本におけるサーモン養殖の現状と展望、さらに食料としての養殖サーモン類の課題などについて専門あるいは関係の方々にお話を頂き、養殖サーモン類のこれからを考える一助としたいと思います。

サケ会議の概要

- 【1】日時：2024年6月8日(土)
14:00~17:15
- 【2】会場：総会会場と同じ
- 【3】テーマ：養殖サーモン類のいまとこれから
- 【4】内容：
 - (1) 開会挨拶と趣旨説明
阿部周一氏
(北海道サケネットワーク代表)
 - (2) 講演
 - ①北海道のサーモン養殖と展望
佐々木義隆氏
(伊藤組土建株式会社 新期事業推進室 担当部長・道総研フェロー)
 - ②岩手県でのサーモン養殖と展望
田村直司氏
(岩手大学研究・域連携部産学連携専門員)
 - ③消費者の目線で考える養殖サーモン
伊藤慶子氏

(北海道文教大学客員准教授)

④総合討論

司会：河村博氏(北海道サケネットワーク顧問)

⑤閉会

【5】懇親会

Topics

なぜ野生魚は大切なのか

—あさひかわサケの会講演—

設立10周年を迎えた「あさひかわサケの会」の会員会議(総会)が、2月18日神楽公民館で開かれました。会議に先立ち一般公開の記念講演が持たれ、水産研究所の佐橋玄記さんが、『なぜ野生魚は大切な存在なの?』と題して講演し、参加者の注目を集めました。

「野生魚がいかに資源に貢献しているか」「野生魚の割合を20%から40%にすると河川回帰率は1.9倍になる」など、実証的な様々な例を挙げ、野生魚の適切な保全・管理をすることによってふ化放流の効果を上げ、資源を安定的に利用できることや、経済的にも大きなメリットがあることなどが話されました。参加者からは“目からウロコ”の話だったとの感想が。

